

まちなか工房展示スペース利用行事 報告
人を呼び込むまちなかの交通計画ーきくち電車の市電乗り入れとLRT化計画ー

社会環境工学科 溝上章志

1. 緒言

「熊本電鉄線の利用促進・都心結節とまちづくりを考える交通社会実験」は、1)熊本電鉄沿線住民や実験参加者に基幹公共交通機関としての鉄道の利便性を体感してもらうこと、2)実験参加者に対して熊本市中心商店街から特典を提供するという、公共交通と商店街との連携を図ること、3)両者の協力が沿線のまちづくりや中心市街地の活性化に及ぼす多面的な効果を計測することを目的として実施されたものである。まちなか工房展示スペースで開催された写真パネル展示会「人を呼び込むまちなかの交通計画ーきくち電車の市電乗り入れとLRT化計画ー」は、この交通社会実験と同時に、まちなか工房プロジェクトの成果を市民に広報することが目的である。

2. 実施概要

すきたい熊本協議会は、熊本中心市街地商店街等地区およびその周辺地区の活動主体が共に手を携えるまちづくりを推進し、人に優しい安全で快適な環境の形成、集客力の向上、地域経済の活性化および生活文化の創造等を目的としており、その達成のために、まちづくりの将来ビジョンの研究、まちづくり計画の策定、これらの実現に資するまちづくり活動やイベントの実施などの活動を行う任意の協議会である。一方で、熊本市は新中心市街地活性化基本計画の策定を急いでおり、公共交通によるまちづくりは計画の基本メニュー項目でもあった。まちなか工房プロジェクトでもある熊電の利用促進策が、交通まちづくりにどれほどの効果を示すかというフィージビリティの検証由のために、「熊本電鉄線の利用促進・都心結節とまちづくりを考える交通社会実験」は、熊本電気鉄道(株)とすきたい熊本協議会、熊本大学まちなか工房、熊本県、熊本市、合志市が共催して実施された。

3. 結果

1) 実験の概要：

熊本都市圏の都市交通マスタープランにおいて、熊本電鉄線は8軸公共交通網の機能強化の1軸(北部方面)を担うものとされており、さらに都市交通アクションプログラムにおいても、熊本電鉄の都心結節は別



図ー1 実験の広報用ポスター

途検討課題として位置付けられている。今回、熊本電鉄線の利用促進および都市結節についての交通社会実験を行うことにより、沿線住民や参加者に基幹公共交通としての鉄道の利便性を体感して頂くと共に、熊本市中心商店街のイベントとも連携した中で、まちなかの魅力に触れていただき、熊本電鉄線による沿線のまちづくりや中心市街地の活性化などに及ぼす多面的な効果について認識していただくことを目的とする。

2) 事業効果の予測：

- a) 実験参加者に対するアンケートから得られた意見や要望を分析し、熊本電鉄の利用促進策、都心結節についての基礎資料を得る。
- b) 実験前の告知や実験を通して、熊本電鉄線の利便性を広範囲の市民に知ってもらい、今後の熊本電鉄線のあり方などについて議論が深化することが期待される。
- c) 熊本電鉄の利用促進策の実施に伴い、中心市街地への来街者が増加し、中心市街地の活性化が期待できる。
- d) 環境負荷の軽減、エネルギーの節約、高齢化社会への対応、交通安全などに対して、市民意識の向上が期待される。